

授業改善プラン

地域名	東上総教育事務所	学校名	大網白里市立瑞穂小学校
-----	----------	-----	-------------

1. 課題（全国学力・学習状況調査結果から）

- 平成30年度の算数Aにおいては、単位量あたりの大きさを求める除法の式と商の意味の理解についての設問に課題がある。
- 平成30年度の算数Bにおいては、数量の関係を考察し適切な式に表現する設問に課題がある。
- 上記2点から、式（考え方）や答えについて詳しく考察したり、正しい式（考え方）を導き出したりする力がまだ十分育っていないと考えられる。

2. 取組のポイント（仮説、改善方法等）

- 他者の思考過程を理解しようとする話し合いの場を工夫すれば、思考・表現する意欲が高まるだろう。
- 児童の実態に応じて、つまずきや誤答を生かした授業展開を工夫すれば、考察・表現する必要感が生まれ、学習内容の理解が深まるだろう。

3. 具体的な実践

- 第6学年「円の面積」【別添資料1】
 - ・同じ解き方をしている児童でグループ分けをし、はじめにつまずいている児童が、できたところまで話し、解決までの方法を児童相互の教え合いの中で見つけていけるようにした。
- 第2学年「ひき算のひっ算」【別添資料2】
 - ・予想される誤答をキャラクターの誤答として提示し、キャラクターにどこが間違えているのか教えるような説明を書いたり話し合ったりした。
- 誤答集の作成【別添資料3】
 - ・全学年の各単元で、児童がつまずきやすい問題や児童の誤答を書き出し、冊子をつくった。つながりのある単元や次年度の授業を改善する上で参考にできるようにした。

4. 成果

- ・6年 事後調査に「平成31年全国学力・学習状況調査」1（3）を実施したところ、全国平均を10ポイント以上上回った。
- ・つまずいている児童の考えを取り上げ話し合うことで、同じようにつまずいている児童が安心して自分がどこまで理解しているか話したり、どう解いていけばよいか考えたりできた。
- ・誤答について考えることで、正しく解くためにはどんなことに気を付ければよいか思考しながら問題を解く児童が増えた。

◆担当指導主事から（東上総教育事務所 指導主事 白土 俊幸）

全国学力・学習状況調査の結果を細かく分析して、自校の実態にあった研究テーマを設定し、年3回の検証授業を実践した。指導案検討や授業後の協議会では、より良い研究となるように活発に意見交換が行われるなど、研究主任を中心に全職員が熱心に取り組んでいた。